

大阪市の一般社団法人「港まちづくり協議会大阪」事務局長の松本英之さん(52)は、昨年11月に開いたイベントで、大阪の魅力を再認識したという。

道頓堀から大阪港まで、川を観光船で進むという企画。今でこそ両岸に見えるのは建物の「裏側」だが、江戸時代には川や堀が玄関口となり、全国各地から米や海産物などが船で運び込まれた。大阪が「水都」と呼ばれるゆえんだ。

参加した市民らは「街の成り

## 水都・大阪を時間旅行

立ちを実感できる」「こんな機会がもっとあれば」と、目を輝かせていたという。

「仮想現実を応用すれば、川を進みながら『天下の台所』の風景を手持ちのスマホで見られる。外国からの観光客だって喜びますよ」。経営コンサルタン卜が本業の松本さんは、新たな楽しみ方を考えている。

大阪港は今年、開港150年目。歴史の波間を「タイムクルーズ」できたら——想像しただけでワクワクする。(中谷圭佑)

